

第16回軽金属学会功労賞

[軽金属学会特別功労賞]



大園 智哉 君
(前軽金属学会事務局長)

大園 智哉君は、昭和43年4月に住友軽金属工業(株)入社以来、住友アルミニウム工業(株)、(株)アリシウム、(財)金属系材料研究開発センターへの出向等を経て、平成17年3月に(財)金属系材料研究開発センターを退職した。この間同君は、アルミニウムの溶解鋳造の現場業務および研究開発、アルミニウムリサイクル等の国家プロジェクトの管理運営に従事し、軽金属産業の発展に貢献してきた。

平成17年4月からは、本学会事務局長として8年間、本学会の財政健全化や新法人移行の業務を円滑に進め、学会の発展に多大な貢献をしてきた。学会役員、各種委員会委員長・委員等の運営メンバーが、2年任期で交代する中であって、その温厚な人柄で学会運営メンバーに接し、精神面でも学会の運営を支えてきた。同君の存在なくして、この8年間の本学会の発展はありえなかったと推察される。

とくに、平成20年12月から施行された公益法人制度改革に伴う本学会の一般社団法人への移行に際しては、当時の浅見総務委員長とともに、所轄官庁および関連他学協会からの情報収集に労を惜まず尽力した。その結果、公益社団法人となるよりも、一般社団法人のほうが会員の利益につながるとの結論に達し、平成23年4月に一般社団法人として認可されるに至った。最善の選択であったと誰もが認めるところである。以上のように、同君は、これまで軽金属産業ならびに本学会の発展、一般社団法人移行認可に対する功労が極めて大きいと判断され、ここに、軽金属学会特別功労賞を贈る。

[軽金属学会功労賞]



安達 充 君
(株式会社コイワイ
技術顧問)

安達 充君は昭和52年に三井アルミニウム工業(株)に入社後、昭和61年に宇部興産(株)を経て、平成24年から(株)コイワイに勤務しており、これまで30有余年にわたって高品質な鋳物用アルミニウム合金の開発や高圧鋳造成形プロセスの開発とその実用化に取り組んできた。中でも、Al-Si-Mg系合金の鋳造性や機械的特性に及ぼすSi改良処理の影響およびその時効特性を明らかにし、さらにAl-Mg系合金では微量成分の影響とその時効特性を明らかにするなど、高品質鋳物製品工業化のための基盤技術の発展に大きく貢献してきた。また、溶湯から直接半凝固スラリーを作って加圧鋳造するレオキャスト法では、成形プロセスやその装置の開発を独自の方法で進めて市販化に成功した。

同君は上記の高品質鋳造技術の開発とともに、軽金属学会の高圧鋳造研究部会、高品質・高信頼性鋳物鋳造技術研究部会の委員として所属会社保有の鋳造機を使い、産学の参加メンバーと共に各種試験を実施し、機械物性、金属組織の集約・整理に取り組んだ。九州支部においては、支部役員(評議員)として、講演会や見学会を企画担当し、支部会員相互の情報交換を長年にわたり支援した。また、平成11年、18年、24年に行われた九州地区担当の全国大会実行委員として、同大会の成功にも貢献した。以上のように、同君の本学会に対する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を贈る。